Mochizuki Outdoor Tools

BACKCOUNTRY RESEARCH

vol.4 2024



厳選アウトドアギア情報

風雲、雨霧、北八ヶ岳登山

信州・野尻湖畔SUPファミリーキャンプ

MSR新作テント「ティンハイム」インプレッション

MSRステッカー付き Take Free!

BACKCOUNTRY RESEARCH 2024

CONTENTS〔目次〕

04……風雲、雨霧、北八ヶ岳登山。
14……信州・野尻湖畔SUPファミリーキャンプ
24……NEW PRODUCTS IMPRESSION
ティンハイム2/ハバハババイクパック1
30……新商品情報　MSR、サーマレスト、UCO、ハンモックなど
46……STORM テクニカルシェルに命を吹き込め！
48……UCOフラットパックグリルと旅して
52……ADVENTURE ESSAY BY ホーボージュン
54……アンケートに答えてプレゼントをGET!
55……PHOTO CONTEST
56……メンテナンス〜MSRトレイルショット〜
58……TEPPA 鉈のクリーナーとオイル
60……まさに機能美！使い易さを追求したペグハンマー
61……新潟の遊びと食vol.3 弥彦山/角田山と海の幸堪能旅

写真・布施智基

ABOUT

確かな情報をバックカントリーから

株式会社モチヅキは1950年、谷川岳に通うクライマーの望月力が創業し、町の鍛冶屋職人と共にハーケンを開発したことに起源を持つ会社です。時代の移り変わりに合わせて1980年代より輸入を開始し、現在は米国のMSRをはじめとする海外のアウトドア用品を輸入・販売しています。また、近年は創業の理念に立ち返り、三条の地場の職人たちとともにTEPPAブランドの鉈やハンマーなども手がけています。

優れた道具を扱うなかで気づいたのが、その物が生まれた背景や使い方、本来のフィールドを伝えることも大切だということでした。そうした思いから立ち上げたのが、このBACKCOUNTRY RESEARCH（バックカントリーリサーチ）です。2021年にスタートし、ご好評をいただいて、ここに4号目が完成しました。2022年からは冬季の特別号も立ち上がり、春夏秋冬の旬の情報をピックアップしています。

本紙のいくつかの記事は、二次元バーコードによってWEBサイトとリンクしています。紙とWEB、それぞれの特性を生かして、サポートするアスリートやスタッフの実践から生まれた、信頼に足るフィードバックをお届けします。

株式会社モチヅキ代表取締役
望月 聡



衣食住を背負って1泊2日

風雲、雨霧、北八ヶ岳登山。

見慣れた景色も、天気次第で印象はまったく異なる。苔の森というイメージが強いこの山域もしかり。まだ見ぬ北八ヶ岳を求めて1泊2日のテント泊山行へ。

文・根津貴央　写真・布施智基



石田 啓介（いしだ けいすけ）
1978年、愛知県生まれ。名古屋のアウトドアショップ『MOOSE（ムース）』代表。一年を通じて、トレイルランニング、ファストパッキング、ウルトラライトハイキング、スキーを楽しむ。八ヶ岳は好きな山域で、これまで何度も訪れている。



スタート地点の麦草峠から茶臼山までの登り。雨と霧のおかげで神秘的な雰囲気が漂う。

「雨か……」。スタート前、麦草峠の駐車場に着いた時には、すでに本降りになっていた。

これが北アルプスや南アルプスだったら、山行を中止していたに違いない。リスクはもちろんだが眺望が期待できず楽しくないからだ。でも今回は違った。晴れに越したことはないが、不思議とそれほどイヤな感じはしなかった。

大粒の雨に打たれつつ、麦草峠から歩きはじめる。一面に広がる樹林帯は、鬱蒼した感じはなく、太陽は少しも出ていないのになぜだか明るい印象を受ける。木々は瑞々しく、葉っぱや樹皮についた雨粒が輝いている。まさに北八ヶ岳らしい世界が広がっていた。

晴天が正義というわけではないのだ。雨には雨の良さがある。季節に春、夏、秋、冬と四季があり、それぞれが他にはない素晴らしさがあるのと同じように、天候にもそれぞれの魅力があるのだ。

途中、ときどき休憩をはさみながら、茶臼山（標高2,384m）までつづく長い登りを進んでいく。こんな日は、展望の良さで知られる茶臼山にどんな景色が待っているのだろう。

茶臼山にたどり着くと、あたりは真っ白だった。ガスっていて、数メートル先までしか見えないほど。しかも、足を踏ん張っていないとよろけてしまうほどの暴風だった。

「樹林帯は静かだったので、まさか、山頂がこんなに悪天候だとは思っていませんでした。でもいろんな天候が味わえて、これはこれで面白いですね」と石田さんは笑みを浮かべながら言った。

そんな懐の深さを見せる石田さんだが、実は彼、自他ともに認める大の雨嫌いなのだ。山行はもちろんのこと日常生活においても、雨が降っているとテンションがまったく上がらない。そんな彼がにこやかにそんなことを口にするくらい、雨の北八ヶ岳は素晴らしいのである。

山に行くと絶景を期待することは多いし、標高が高いぶん遥かかなたを眺めたくなるものだ。でも今回のように遠くが見えないと、おのずと近くのものに意識がいく。たとえば、樹皮に自生している苔だったり、登山道の脇に生えているキノコだったり。普段であれば見過ごしてしまいそうな自然が、次々と目に入ってくる。それはあたかも脇役が主役になったかのようで、そんな気づきを得られる

木々は瑞々しく、
葉っぱや樹皮についた雨粒が輝いている。



木肌に目をやると、至るところに美しい苔が自生していた。



大岳の近くにて。溶岩流によって形成された岩が点在。



急に雨が上がり青空が顔をだす。軽やかな気持ちで縞枯山荘の前に伸びる木道を歩く。

のも、雨の効能なのかもしれない。

今回の１泊２日の北八ヶ岳山行は、おそらくこのままずっと雨模様なのだろう。今のところ楽しいから問題ないが、これから先どうなるかはわからない。いずれにせよ、いかに雨を楽しむか？ がこの旅のテーマになるように思えた。

雨池峠から縞枯山荘方面につづく樹林帯を抜けるところで、辺りが明るくなっていることに気づいた。はじめは、樹林帯が終わったか……くらいにしか思っていなかったのだが、ふと見上げると青空が広がっていた。一時的に雨が上がることはあったとしても、まさか青空が見えるとはまったく想定していなかった。

またすぐに雨が降ってくるかもしれない。つまり青空もこの一瞬だけかもしれない。そう思って、今朝からずっと着つづけていたレインジャケットを脱ぎ、レインパンツもしまった。なんだろうこの解放感は。身も心も軽くなった心地がした。湿った風も乾いた風に変わっていた。これまでとは一変した雰囲気のなか、軽やかな気持ちで縞枯山荘の前に伸びる木道を歩く。

歩いていて気づいたのは、解放感の理由のひとつが木道に起因しているということだった。これまでずっと雨のなかを歩いていた。楽しく歩いていたのだが、滑ったりくじいたりしないように足元にはかなり気をつかっていた。雨天であれば山に限らず当然のことで、大して気にもとめてなかったし、無意識でやっているくらいのことだった。でも、それがなくなるだけで、こんなにも気がラクなのか、精神的なゆとりが生まれるのか、とあらためて気づかされた。

次に現れたのは、坪庭自然園。通称、坪庭だ。北横岳（標高2,480m）の噴火で噴出した溶岩が固まってできた溶岩台地に、高山植物が広がっている。これまで樹林帯が多く、穏やかで柔らかだった雰囲気が一変し、ゴツゴツとした岩石が至るところにあり、荒々しい。もう青空も見えなくなっていた。雨は止んだものの、大きな雲がただよい、時折ガスがあたりに立ちこめる。

良い意味で、自然に翻弄されている気







北八ヶ岳の中でも異質なエリア。森の中の巨岩を飛ぶように渡る。

がした。雨一辺倒ではおもしろくないし、晴れ一辺倒でももの足りない。そもそも登山というのは、自然を楽しむのが目的で、自然と戯れに来ているのだから、このくらいの変化がちょうど良いのだ。くわえて、予想通りや予定調和ではないほうが旅感も味わうことができる。

北横岳から大岳（標高2,382m）方面へと向かう。しばらくは樹林帯だが、徐々に大きな岩が現れはじめる。このあたりは火山活動の溶岩流によって形成されたエリアゆえ、岩石をはじめ独特の景観が広がっている。

石田さんは言う。「このあたりは八ヶ岳のなかでも、異質でおもしろいエリアですね。岩という点だけで言えば南八ヶ岳の赤岳や権現岳もありますが、それらは見るからに岩で、岩稜帯という印象。でも、この大岳周辺のエリアは、大きな岩がたくさんあるもののあくまで森の中というか、森に抱かれている感じがします」。

たしかにその通りだ。大岳に近づけば近づくほど岩は大きくなり、数も増える。でもそんな岩だらけであるにもかかわらず、周りには森が広がっているのだ。言われてみれば、不思議な光景である。

しかも、よくある岩稜帯のように手足を使って移動するというよりは、岩から岩へと飛び移る箇所が多いのも特徴的。アドベンチャラスで、スリルも味わえるエリアなのだが、思った以上に長くつづくので注意が必要だ。特に、双子池に向かう下りのエリアは勾配も急で思った以上に足腰に負担がかかる。

「個人的にはすごく好きなエリアですが、岩場とかを歩き慣れている人ではないと少しハードかもしれません。あと雨が降っていたらスリッピーで大変でした。ちょうど雨が上がったタイミングで良かったです」と石田さん。

大岳山頂への分岐点から双子池までのコースタイムは、山と高原地図で１時間20分。雨も上がったしこのペースなら１時間くらいで着くかなと思っていたが、思った以上に長く感じた。岩が多いだけではなく、かなり急な下りだったこともあり、意外とカラダに負担がかかっていたせいで長く感じたのかもしれない。双子池ヒュッテの屋根が視界に入ったときに、安堵感がわきあがってきた。雲は多いものの少し青空ものぞいていて、天気



大岳周辺にはワイルドな木々も広がっていた。場所場所で異なる北八ヶ岳のさまざまな自然を味わいながら歩く。





大岳の近くは岩から岩へと飛び移る箇所が多く、アドベンチャラスでおもしろい。

双子池のテントサイトでは、
眼前に広がる雌池（めいけ）
の水を浄水して使用した。

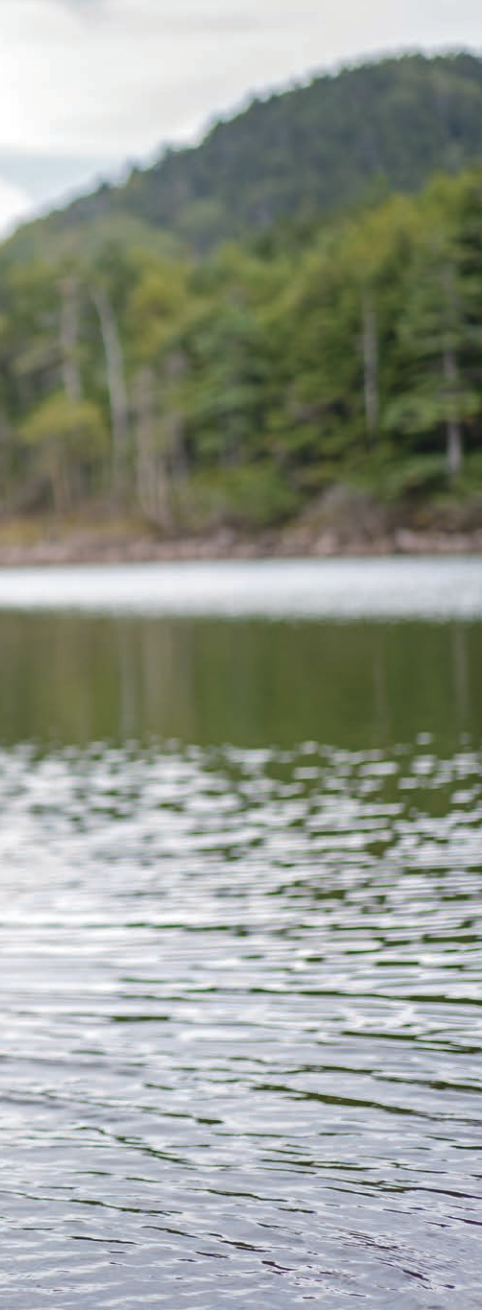


小型軽量ながら十分な
火力のあるMSRのポ
ケットロケット2。

は悪くない。風もない。今晩のテント泊を楽しみにしながら、残りの下りを進んでいった。

双子池にたどり着き、受付を済ませて、湖畔のテントサイトへと向かう。誰もいない湖畔のテントサイトは、しんと静まり返っていて神秘的な雰囲気が漂っていた。ここは、ウィルダネスなのか？ 北八ヶ岳であることも双子池であることもわかっていたが、そんな気すらしてしまうくらいの世界が広がっていた。

「何度も訪れている北八ヶ岳ですが、この時だけは、まるで北米のトレイルに



ストーリー動画はこちら!



静まり返った湖畔でのテント泊。まるで、北米のトレイルに来たかのよう。

来たかのような錯覚を覚えました。そもそも、日本の山岳エリアでこういう湖畔のテントサイトは珍しいです。景色は最高ですし、浄水器も持ってきてたから水に困らないのもいいですね。水場の近くというと河原でのテント泊もありますが、河原だと増水の心配もあります。湖ならそれもありません」

何もしなくても楽しかった。今日一日、トレイルや岩場を歩くことや木々を見ること、移ろう天候などの自然と触れ合うことなど、いろいろな行為を楽しんできた。でも、もう何もしなくてもいいと思った。何もしなくても、ただここにいるだけで、もうそれだけで満たされた気分になっていた。

石田さんは、これまで自身のスタイルとしても、チャレンジングな山行をすることが多かった。今回のような1泊2日の日程でもこの倍くらいの行程だったり、時には走ることもあったり、あるいは軽量化を意識して、よりUL（ウルトラライト）なギアで旅をしたり。北八ヶ岳には何度も訪れているが、この日程でこのルートというのは、初めての試みだった。

「テントサイトにこれだけ長時間いるというのは、久しぶりです。ここしばらくの山行は、行動することがメインで、サクッと寝て翌朝早くにまた出発、という感じでした。でも、この双子池のテントサイトは最高です。何もしなくても満足感がありますし、長く過ごすからこそ、軽量ながらもダブルウォールのテントでのんびり過ごすのがおすすめです」

雨からはじまった今回の1泊2日の北八ヶ岳テント泊山行。雨だけではなく、暴風あり、濃霧あり、岩場あり、絶景なし、そして最後に北米を彷彿とさせる大自然でのテント泊ありと、まだ見ぬ北八ヶ岳、知られざる北八ヶ岳を垣間見ることができた。たとえ何度も訪れている山であったとしても、季節や天候、臨むスタンスやスタイルで、これまでとは異なる旅ができる。そんな気づきが得られる山行だった。さて、次はどこを旅しようか。この北八ヶ岳にまた戻ってくるのも、良いかもしれない。





THERM-A-REST／ネオエアーXライトNXT RS

熱反射板（サーマキャプチャー）を、従来の1枚から薄手のものを3枚重ねる構造にしたことで、前モデルより静かな寝心地を実現。厚さも1.2cm増して7.6cmに。断熱性も向上しR値が4.2から4.5にアップした。

価格：￥37,400
サイズ：51×168cm
収納サイズ：23×10cm
重量：326g　厚さ：7.6cm

THERM-A-REST／Ohm −6℃

-6℃対応ながら重量635gというウルトラライト仕様。ダウンには、900フィルのニクワックス・ハイドロフォビック・ダウンを使用することで、一般的なダウンに比べ3倍の速乾性があり湿気にも強い。

価格：￥75,900
サイズ：身長183cmまで
収納サイズ：17×20cm
重量：635g（ダウン量355g）
中綿：900フィルグース
Nikwax Hydrophobic Down RDS



MSR／ポケットロケット2

重量73gの超軽量ストーブ。バーナーヘッドは風を防ぐ仕様で、1Lの水を約3.5分で沸騰させるほどの火力を有する。ゴトクは回転させてコンパクトに収納できるので、かさばらず携行しやすい。

価格：￥9,020
サイズ：3.4×4.4×7.9 cm
重量：73g
出力：2,143kcal/h

MSR／タイタンケトル900ml

チタン製の超軽量クックポット。容量900mlは、一回で飲み物と食事両方のお湯を沸かせる使い勝手に優れたサイズ。密閉性の高い蓋は、バックパックの中でも外れにくいので安心感がある。注ぎ口は湯切れの良いデザイン。

価格：￥13,200
重量：129.5g
サイズ：12.4×11.2cm



platypus／クイックドロー 1Lフィルターシステム



システム全体の重量はわずか95g。浄水スピードも速く、スクイーズモードで1Lを約20秒で浄水できる。手間取ることがないため行動中も停滞時もストレスフリー。99.9999%の細菌と99.9%の原生動物を除去するEPAとNSFのガイドラインもクリアしており、安全性にも優れている。

価格：￥11,000
サイズ：5×13cm（フィルター本体）
収納サイズ：8×13cm
重量：95g
流量：3L/分









左上：THERM-A-REST／
エアヘッド
ライトピロー R
￥5,280

右上：ORALPEACE／アウトドアアドベンチャートゥースペースト55g
￥1,100

左下：MSR／タイタンスポーク ￥2,970

右下：UCO／レスシャイ
￥2,200



MSR／フリーライト1

重量890gと、ダブルウォールとしては最軽量クラスの3シーズン用テント。軽量ながらも、設営時の室内は、縦221cm、横84cm、高さ100cmと、居住性も十分。インナーテントにはマイクロメッシュを採用することで、通気性にも優れ、結露を軽減してくれる。

価格：￥63,800
使用サイズ：221×150×100(h)cm
収納サイズ：46x10cm
重量：890g
定員：1人





水辺を楽しむ家族を訪ねて

信州・野尻湖畔SUPファミリーキャンプ

長野県の北部・信濃町。四季折々に表情を変える豊かな信州に暮らす、ある家族を訪ねました。夫婦ふたりだった仕事や活動から家族が増え、新しいライフスタイルへ。どんなキャンプを楽しんでいるのかお聞きしました。

文・福瀧智子　写真・田島継二





「ぼく運ぶ！」と、何でもやってみたいお年ごろの慧人くん。ほほ笑ましいキャンプの始まり

湖面を抜ける柔らかな風が子どもたちの歓声と溶け合う、ある夏の心地よい昼下がり。野尻湖の湖畔で家族キャンプを楽しむ丸山さん一家の姿がありました。

ナウマンゾウの化石で有名な野尻湖は、新潟県との県境に近い長野県北部・信濃町にある湖です。のびやかな黒姫高原や妙高高原に囲まれた高原地にあり、湖上からは斑尾山や黒姫山といった北信五岳がのぞめるという絶好のロケーション。湖の形が芙蓉の花に似ていることから別名「芙蓉湖」とも呼ばれ、上信越国立公園でも人気の観光スポットとして知られています。

そんな恵まれたフィールドが広がる野尻湖の西岸で、「スロープ・プランニング」というガイドカンパニーを営むのが丸山夫妻。夏はおもにここ野尻湖でSUP（スタンドアップパドルボード）を中心とした水のアクティビティのツアーを開催しています。

「今では広く知られるようになったSUPですが、一般のサーフボードよりも大きく浮力があり、湖のようなうねりのない場所であれば、初心者でも簡単に立つことができる水の遊びです。風が穏やかな日は漕ぐ力もさほど必要でないので、小学生も楽しむことができるほど。うちで１番多いのは半日の体験ツアーですが、経験者の方や常連さんは１日ツアーを利用される方も多い。この野尻湖のロケーションが本当にすばらしいので、時間をかけて漕ぐゆったりとした楽しみ方をみなさんわかっているというか」

そう代表の丸山隼人さんが笑います。さきほどから４歳になる慧人くんも野尻



丸山ファミリー
丸山隼人さん・春菜さんご夫婦と、長男の慧人くん（４歳）、長女の藍菜ちゃん（１歳）。ご夫婦は冬はスノーボードのライダーとして、夏は野尻湖でのSUPガイドとして活動する。子どもたちは長野県・信濃町の自然の恩恵を受けながら、すくすく元気に成長中！



よい風が抜ける湖畔のキャンプサイト。テント設営も家族で一緒に。



いつだってキャンプ道具は子どもにとってワクワクの塊だ。

TEPPAのベースキャンプハンマーは軽い力でもペグを打ち込める。





MSRのポケットロケット2を低めに設置できるアダプターでケトルも安定。



家族キャンプの必需品ハンモック。小型軽量のチケットトゥザムーン。



スポンジのようにグングン水の遊び方を吸収している慧人くん。



絵に描いたような子どもの夏休み。わんぱく息子が桟橋からダイブ！

湖がまさに自分の庭といわんばかりの雰囲気で、この日も水遊びに夢中でした。でも、なぜ湖なのに屋号が“スロープ”なのでしょうか？

「それはもともと私たちの活動が雪山からスタートしたからですね」と、春菜さんが引き継ぎます。じつはおふたり、SUPガイドであるとともに、スノーシーズンでは有名なプロスノーボーダー。スキー場のゲレンデだけでなく、自然地形やパウダースノーを滑るライディングスタイルが多くの人を惹きつけ、雑誌やムービーといったメディア活動のほか、スキル向上のためのイベントやレッスンキャンプも開催。隼人さんは“バブルス”という愛称で知られる、コアなファンから絶大な人気を誇るライダーであり、春菜さんもまた女性ライダーとしてスノーボードや自然とともにあるライフスタイルの魅力を発信しています。

「冬に夫が仲間とスキー場で造る人工的なボウル地形やスロープ制作の方がもともと活動の中心にあり、スロープ・プランニングという屋号もそこから生まれました。ここ信濃町にはスノーボードともっと密接でありたいという思いで15年ほど前からふたりで暮らし始めました。そしてSUPと出合い、家の近くに野尻湖があって。ふたり揃ってサーフィンも大好きなので、SUPを仕事にしたらよいのではとスタートしたのがこの夏の仕事です。自分のために漕ぐときも、ずっと滑り続ける身体を保つためとか、自分を癒すためなど、モチベーションはさまざまですが、今では家族の時間も深めてくれる我が家に欠かせないツールになっているんじゃないかな」

＊

雪国へスノートリップに出かけるときも、日本海へ波乗りに行くときも、これ



吸水速乾タオル地で作られたパックタオルのチェンジングポンチョ。

外遊びが大好き



自然派の両親のもとですくすく成長。どんな女性に育つんだろう？



愛娘を前にすれば世に知られた“バブルス”の顔にあらず。



家族４人分の食材が悠々と焼けるファイヤーサイドアウトドアのポップアップピット。





よく遊び、よく食べ、よく眠る。
子どもの本分、まっすぐに追求中。

までは外では車中泊が中心だったというふたり。仕事道具でもあり、宿泊の手段でもある愛車ハイエースは装備も万全で、何日泊まっても快適に過ごせる仕様になっているそうです。

「ただ、僕らのライフスタイルにも変化が生まれました。ふたりだった頃から慧人が生まれ、藍菜が生まれ、家族の人数が増えました。この先、子どもがもう少し成長して今より手がかからなくなれば、家族でサーフィンに出かけて何泊かし、テントを張る、ごはんの支度をするという時間だって持てるようになる。そうしてキャンプを通じて自然のなかにもっと深く踏み込むことができるようになると思うんですよね。最近は仕事場でもある

太陽光充電のキャリー・ザ・サンが、夕暮れのキャンプサイトを柔らかく照らす。





夕食後は大人の時間。好きなハイボールを片手に、火を愛でる夜更けの時間は格別だ。



ストーリー
動画は
こちら!

朝焼けに染まる空の下、パドルでそっと水面をたぐり寄せる。言葉のいらない静寂のひと時。

気軽に持ち出せる、防水仕様のソフトクーラーのアイスミュール。





スマートフォンや車の鍵、タブレット等の電子機器はシールラインのEケースに収納して湖上へ。

ここ野尻湖畔にときどきテントやタープを張って、第２の家のように使ってみています。慧人はもちろん藍菜も水辺を怖がらず、僕らの子どもだなぁと思うんですよね。国内の水辺や雪山を一緒に旅できたら本当に楽しいだろうな」

　キャンプのためにキャンプに行くのではなく、遊びの先にキャンプがある。丸山家のライフスタイルはそんなキャンプとの付き合い方がよく似合います。野尻湖で遊びまわる慧人くんや、水辺に佇む藍菜ちゃんの姿に、日本の自然を遊び尽くすたくましい未来が見えた気がしたのでした。

SLOPE PLANNING
Data
夏季はおもに信濃町にある野尻湖でSUPを中心とした水のアクティビティを提案。冬季は信越・妙高エリアをベースにスノーボードキャンプやイベントを開催し、自然地形やパウダーのライディングの技術を広く伝えている。
https://slopeplanning.com
TEL.026-262-1289（11:00～18:00）
info@slopeplanning.com





全長を覆い、就寝時に虫などの侵入を防ぐカバーも別売りである。



TICKET TO THE MOON／ORIGINAL

バリ発のハンモックブランド「チケットトゥザムーン」。パラシュート生地を用いた本体は軽量コンパクトながら強度に優れ、肌触りや通気性がよく、設営も簡単。世界中のバックパッカーや音楽フェス、キャンプの場などで愛される。カラーリングも多彩で、設営場所がパッと華やかになる。

価格：￥7,810
使用サイズ：320×200cm
収納サイズ：40×13×11cm
重量：600g
耐荷重：200kg　※専用ストラップ別売

金物の街・三条で造られる。先端はペグを抜きやすい形状を採用。



TEPPA／ベースキャンプハンマー

高強度のスチール製ヘッドを備えたシェルター用ペグハンマー。ハンドルは天然木を使用し、カラビナを通すことを想定した穴付き。ヘッドの重さで硬い地面にもラクにペグを打ち込めるが、手にしたときのバランスがよく、重量以上に軽く感じる。

価格：￥6,600
サイズ：28.3×12.4×3.5cm
重量：650g

MSR／ハビスケープ4

丸山家のような遠征好き家族に使い勝手のよい４人用テント。設営が直感的で素早く、大人でも余裕を持って立てる185cmの室内高や、前後に備わるふたつの前室付き出入り口など機能面に優れる。子どもの手が届かない位置にポケットを複数備える点も非常によく考えられている。

価格：￥74,800
使用サイズ：363×241×185(h)cm
収納サイズ：61×23cm
定員：4人
重量：5,760g

出入り口が２ヶ所あり、開放的な室内空間。風もよく抜け心地よい。





上部スペースはアウトドア用の焚き火台としてトップレベルの広さ。



FIRESIDE OUTDOOR／ポップアップピット

ワンアクションで脚を広げ、瞬時に組み立てができる焚き火台。四方のファイヤースペースは62cmと広く、炭や薪を載せるステンレス製メッシュの効果で、燃焼効率のよさは野外料理人も太鼓判を押す。食材を載せたステンレス製四つ折りグリル（上写真）は別売り。

価格：￥15,400
使用サイズ：62×62×39cm
収納サイズ：68.5×13×13cm
重量：3.6kg



ICEMULE／クラシッククーラーM

筒状のソフトクーラーだが、最大の特徴は断熱層に空気を吹き込んで外部からの熱をシャットアウトし、保冷力をキープすること。入口はロール式で内容量に合わせしっかり閉めることで中身の固定にもなる。保冷時間は24時間以上。

価格：￥11,000
サイズ：40×26cm
収納サイズ：38×18cm
重量：780g
容量：15L
サイズ展開：ミニ、S、M、L
カラー：アイスミュールカモ（写真）、他5色

使わないときは空気を抜いてコンパクトサイズに収納できる。

PACKTOWL／チェンジングポンチョ

パックタオルの素材がもつ吸水・速乾性や防臭性を活かし、タオルと着替えスペースをひとつにした便利なポンチョ。どこでもプライベート空間を確保でき更衣室になる。ハングループ付きで乾燥させやすく、フロントにあるカンガルーポケットは着替えを入れるのに役立つ。

価格：￥9,680
サイズ：S/M（身長152〜175cm向け）
L/XL（身長175〜193cm向け）
重量：510g（S/M）、595g（L/XL）
カラー：ボタニカル、他2色
素材：ポリエステル、ナイロン



リソウェーブ　レトロカーブ　ボタニカル



サッと羽織るだけですばやく身体の水分を吸収。水遊びに便利。



自然をモチーフにしたグラフィック。何枚も所有したくなる。

デイドリーム　ミスティックムース　バランス



PACKTOWL／パーソナル（PRINT）

自重の4倍もの水を吸収する、アウトドア界のベストセラータオル。非常にソフトで軽く、速乾性に優れるだけでなく、サイズやカラーも豊富に揃う。写真はサイズ「BODY」でバスタオル大の大きさ。水辺だけでなく旅行や日々のジムなど、利用の場面は多岐にわたる。

価格：￥5,280
サイズ：BODY（64×137cm）
重量：181g
カラー：デイドリーム、他2色
素材：ポリエステル、ナイロン



NEW PRODUCTS IMPRESSION

TINDHEIM 2 ティンハイム2

文・村石太郎　写真・遠藤 励



北アラスカの原野で過ごすための住処

あの日は、友人とふたり、パックラフトでアラスカの北極圏を流れる原始河川での川下りをしているときだった。氷河から溶け出した大河が流れるウィルダネス・エリアであり、周囲ではハイイロクマやタイリクオオカミといった野生獣が、産卵のため遡上してきたサケの群れを求めて闊歩していた。

その日のキャンプ地を決めて、川岸へと上陸する。背後に迫る峡谷から雷雲が轟きはじめ、生暖かい強風が吹きだした。次第に砂嵐が舞いはじめ、僕たちは大雨の急襲を避けようとテントの中へと逃げ込んだ。室内で耳を欹てていると、遠くから甲高い蹄の打撃音が近づいてきて、数十匹のカリブーの群れがやってきた。ちょっとでも不審な音がすると、幾度となくメッシュパネル越しに室外を覗いて危険を回避しようと努めた。

無人の原野において、2枚の薄いナイロン生地で作られた移動式タイニーハウスほど安心感を得られる場所はない。野生動物の鋭い鉤爪でひっかかれれば簡単に破れてしまうけれども、風雨や砂埃を防ぎ、寒さを和らげ、狭い空間だからこそ心の平穏が満たされるのである。

アラスカから日本への帰国後は、飼い犬と一緒に優しい自然のなかへと踏み入ることが最大の喜びとなる。寝袋に包まれてウトウトと眠りにつくと、足元では寝息を立てている彼女の体温を感じる。ウィルダネスでの生活は、なんてことのない、そんな時間を一番の幸せと感じさせてくれる特効薬なのである。



2024年、春夏シーズンに日本展開が始まるMSR「ティンハイム2」、「ティンハイム3」。耐候性に優れた素材やポール・システムなど、厳しい自然のなかで使うことを考慮した3シーズン・テントがラインナップに加わった。

村石太郎（むらいしたろう）
1970年、東京生まれのフリーランスライター。アウトドア道具に精通し、とくに用品やブランド、登山道の歴史についての執筆が豊富である。四半世紀にわたって、アラスカの北極圏に広がる無人地帯のブルックス山脈でカヤックやパックラフト、徒歩での冒険旅行を続けている。



ウィルダネスで使う道具に求めるもの

ウィルダネスでの住処となるテントにおいて、最重要視しているのは堅牢性である。「ティンハイム」においては、生地の厚み、ポールの太さ、構造の確かさ、利用できるガイライン（引き綱）の数といった要素から抜群の安心感を得る。

悪天候下でも確実に換気を促すことができるように配置された、前室側と後部側に備わるベンチレーションも嬉しい機能だ。前室の床面を覆うフットプリントの存在は、濡れたままのPFDやウォーターサンダルが置けるなど、小さなストレスを軽減してくれる。さらには飼い犬の足を拭くときにも便利だ！

レインフライとインナーテントが接続されているため、素早く設営ができることもありがたい。雨雲が近づいて来たことを察知して、急いで設営をすませて荷物を乾いたままテントの中へと待避させることができる。高緯度地方にあたるアラスカでは、１週間近くも雨が降り続くこともある。そうした日々が続いた朝は、インナーテントを最初に撤収して、乾いたままでパッキングすることができる。「ティンハイム」はウィルダネスでも、湿潤な気候の日本でも、快適なテント生活を過ごすことができるのだ。







ティンハイム２

価格：￥82,500
定員：２人　最小重量：2.48kg　総重量：3.20kg
生産国：ベトナム

ティンハイム３

価格：￥93,500
定員：3人　最小重量：2.91kg　総重量：3.73kg
生産国：ベトナム

設営方法は
こちら!





1ベンチレーション：悪天候下でも、効果的な換気が可能だ。室内から天候状況を確認できるほか、アラスカでは野生熊の到来の確認にも役立つ。**2フットプリント**：前室部の床面を覆うグランドシート。泥汚れや濡れているバックパックやPFDなどを置くためにありがたい。





3ランドリーライン：室内天頂部にはLEDランタンやタオルのほか、濡れたソックスや下着などを吊り下げて乾かすことができるガイラインが引かれている。　**4小物入れポケット**：ヘッドランプやスマートフォンなど、大切な道具を収納しておくためのスリーブポケットが装備される。





5ダブルパネル：ジッパーの開閉によって外気を取り込みたいときはメッシュパネル、室内のあたたかな空気を逃したくないときはリップストップ・ナイロンのパネルにできる。　**6広い室内**：トンネル型テントは軽量で耐風性に優れているが、室内空間を広くできるという利点もある。





7フロアレス仕様：雨天時には、最初にインナーテントをたたむことで乾いたまま収納できる。インナーテントを自宅においてくれば装備の軽量化にもつながる。　**8室内ベンチレーション**：気温が高いとき、湿気が気になるとき、出入り口側のベンチレーターとの相乗効果で換気を促す。





9吊下げ式インナーテント：着脱式トグルを使ってレインフライに接続されているため、素早い設営と撤収が可能だ。**10収納状態**：最小重量2.48kgと最軽量ではないけれど、天井が高く感じ、2人が就寝しても充分な広さがある居住性、高い耐候性を考えると納得できる重さであろう。

山下晃和（やましたあきかず）
タイクーンモデルエージェンシー所属のファッションモデル。海外自転車旅をライフワークとし、各媒体に「旅」をテーマとした文と写真を届けるトラベルライターとしても活動中。自転車とキャンプをテーマにした旅イベント「BIKE&CAMP」も主宰している。



NEW PRODUCTS IMPRESSION

WEB サイトはこちら!

MSR®

HUBBA HUBBA BIKEPACK 1

ハバハババイクパック1

居住性の高い室内と圧倒的な軽さを実現しながら、旅サイクリストに有難い機能満載。
どんなドロップハンドルにも付けられる防水性の高いハンドルバーバッグも付属する。



ハバハババイクパック1

価格：¥99,000
定員：1人　重量：0.93kg　室内高：0.97m
生産国：ベトナム



ハバハババイクパック2

価格：¥110,000
定員：2人　重量：1.40kg　室内高：1.07m
生産国：ベトナム



防水のハンドルバーバッグにハンドルと付属スペーサーがしっかり固定できるため、未舗装路でも振られない。

文・山下晃和　写真・山本 智

ヒトとバイクとテントが一つになる感動を

自転車旅は、大自然の中を駆ける気持ち良さだけでなく、人が暮らす原風景にも出会え、対話も醍醐味のスタイルだ。登山やスルーハイク等の徒歩中心の旅と比べ、広範囲で移動ができ、パニアバッグやサドルバッグ等にパッキングすれば、身体の負担も少ない。つまり、重量よりも収納性が肝心。ハバハババイクパックは、MSRのアイコンでもあるハバハバの持つ軽量性と居住性は確保しつつ、自転車向けにアレンジされたテント。1人用、2人用共にポールが約30cmと極端な短さがいい。なぜなら、MTBのようなフラットバーハンドルなら気にならないが、グラベルバイクのようなドロップハンドルだとハンドル幅よりも短くないと内側に収まらないからだ。ハンドルバッグ型の防水スタッフサックの収納サイズも1人用が約33×16×11cm、2人用が約33cm×20×14cmでコンパクト。よって、グラベルライドでもハンドリングに殆ど影響がなく、腕からテントまでの一体感がある。他にもライトやグローブなどの小物が室内で迷子にならないポケット類もサイクリストの気持ちをお見通し。きっと、週末の自転車旅が待ち遠しくなるだろう。





1ハンドルに収まるポール：折り畳むと30cm程になるので、グラベルバイクで主流のハンドル幅50cmから58cm内に余裕で収まる
2ハンドルマウントできる仕様：ハンドルに装着できる硬めのゴム製スペーサーが付き、バックルを締めて装着する。バンジーコードも締めればオフロード走行も可能





3頭上のギアポケット：室内の上部にあるメッシュ地のギアポケットにはグローブやサングラスを。シャワーの後のタオル等も乾かせる
4寝袋を付けられるロープ：寝袋や衣類を日に当てて干したいときにはテントの上へ置きたくなるが、風に飛ばされないよう物干しロープで固定できる



NEW PRODUCTS INFORMATION

ULへのパスポート
新タイタンシリーズ

タイタンケトル

容量は900mlと1400mlの2種類。ストーブやガスカートリッジを入れ子にして収納することを考慮したデザインです。注ぎ口の形状を改良してさらに扱いやすくなりました。





900ml
価格：¥13,200
重量：129.5g
寸法：φ124×H112mm
内寸：φ110×H96mm

1400ml
価格：¥14,300
重量:152g
寸法:φ138×H130mm
内寸:φ124×H110mm

タイタンロングスプーン

価格：¥3,520
重量：19.6g
長さ：210mm





シンプルなチタンカップ。ケトル同様ハンドルにはシリコンチューブを巻いています。飲み口には熱くなった金属から唇を守るシリコン製のリップセーバーバンドを採用しました。

タイタンカップ450ml

価格：¥7,920
重量：70g
寸法：φ91×H91mm
内寸：φ80×H90mm



驚くほど軽いチタン製の二重構造マグが新登場しました。二重構造の本体には耐久性のあるプラスチック製の蓋が付き、飲み物を長時間、適度な温度にキープできます。

タイタンダブルウォールマグ

価格：¥9,680
重量：112.5g
寸法：φ90×H93mm
内寸：φ75×H86mm

タイタンスポーク

価格：¥2,970
重量：15g
長さ：160mm

軽く、扱いやすいチタンのロングスプーンとスポークです。ロングスプーンは長さ21cmでドライフードパウチの隅々まで残さず掬えるデザイン。いずれもカラビナループ付き。

文・伊藤俊明

THERM-A-REST

人気のホンチョポンチョに
待望のキッズモデル登場!



ストライプ



スペース



アニマル

ユーザーの要望に応えてキッズモデルがついに登場。フード付きのポンチョがブランケットに変わるデザインはそのまま。6歳から12歳のほとんどのお子さまにフィットします。

ホンチョポンチョキッズ

価格：￥15,400
重量：372g
寸法：142×74cm
中綿：エラロフト（ポリエステル100%）

platypus®



Dan Patitucci

クイックドローファミリーがさらに充実



軽量・コンパクトでスピーディ、かつクラス最高レベルのろ過率を実現した浄水フィルターに新色が登場しました。コネクトキャップも付属して、より幅広い用途に対応します。

クイックドローフィルター

価格：¥7,700
重量：83g
寸法：φ50×H130mm
流量：3L/分



ホースの取り付け、ペットボトルやプラティボトルにも対応したコネクトキャップがクイックドローシリーズ全てに付属しています。





1Lのリザーバーとクイックドローフィルターのセットです。リザーバーに圧をかけるスクイーズモードなら1Lの水をわずか20秒で浄水可能。行動中もスムーズに給水できます。

クイックドロー1Lフィルターシステム

価格：¥11,000
重量：95g
収納寸法：8×13cm
流量：3L/分



2Lのリザーバーとクイックドローフィルターのセットです。CPC雄型コネクタ付きのホースが付属し、ビッグジップEVOに直接繋いできれいな水を給水することも可能です。

クイックドロー2Lフィルターシステム

価格：￥15,400
重量：161g
収納寸法：190×80×70mm
流量：3L/分



吊り下げて重力任せにできる3Lのリザーバーとクイックドローフィルターのセットです。CPC雄型コネクタ付きのホースや広口・狭口ボトル対応のボトルアダプターが付属します。

クイックドロー3Lグラビティフィルターシステム

価格：￥18,700
重量：233g
収納寸法：240×100×80mm
流量：3L/分

マイボトルを浄水器に





市販のナルゲン、ハイドロフラスク、イエティの広口ボトルに装着できるシンプルな浄水器です。0.2ミクロンの中空糸膜フィルターは99.9999%の細菌および99.9%の原生動物の除去が可能です。

デイキャップ インボトルフィルター

価格：￥8,800
重量：72g
寸法：106×70×100mm
流量：1L/分



デイキャップ リプレイスメントフィルター

価格：￥5,940

フラットパックの
二次燃焼モデル





人気のフラットパックに二次燃焼可能なモデルが登場。最初の燃焼で燃え切らずに煙のなかに残った可燃性ガスを燃やしきるため、煙や灰が少ないクリーンな焚き火が簡単に楽しめます。

フラットパック
スモークレスグリル

価格：￥35,200
グリル面：42×23cm
収納寸法：46×38×6cm
重量：5.9kg



40cmの薪もそのまま入れられる大型サイズ。フラットに収納できるので携行性も抜群です。

焚き火シェフの相棒

焚き火料理に欠かせないトングとスパチュラ／ターナーをスマートにデザインしました。スパチュラ／ターナーのハンドルはリサイクルポリプロピレン製。トングにはボトルオープナーが付いています。

フラットパック
ネスティンググリルツール

価格：￥5,280
収納寸法：41.5×9cm
重量：486g



キャンプの夜を彩る爽やかな新色

キャンドルランタン

目に優しく、揺らぐ炎に癒されるキャンドルランタンのカラーが一新されました。シンプルなデザインはこれまで通り。「ミニ」「キャンドルランタン」「キャンドリア」からお好みをどうぞ。

フォレストグリーン



ボルケーノレッド



ミニキャンドルランタンキット

価格：￥3,740
重量：99g
燃焼時間：約4時間
素材：アルミ、ガラス
付属品：ティーライトキャンドル4個、収納袋

ソリッドブラス



フォレストグリーン



グレイシャーブルー



ローアルミニウム



テラフィルマ



ボルケーノレッド



キャンドルランタン

価格：￥4,950（ソリッドブラスは￥8,250）
重量：180g（ソリッドブラスは200g）
燃焼時間：約9時間
素材：アルミ（ソリッドブラスは真鍮）、ガラス
付属品：キャンドル1本

ボルケーノレッド



フォレストグリーン



グレイシャーブルー



ローアルミニウム



キャンドリア

価格：￥8,360
重量：540g
燃焼時間：約9時間
素材：アルミ、ガラス
付属品：キャンドル3本

PackTowl®

どこでも更衣室


Maria Bastidas

チェンジングポンチョ

抜群の吸水性と速乾性を持つパックタオルをポンチョにしました。水遊びのあとに体を拭いてそのまま着替えられる一石二鳥のアイテム。ビーチや登山後の人目につく駐車場でも安心です。

	スモール／ミディアム	ラージ／エクストララージ
価格	¥9,680	
重量	510g	595g
寸法	129.5×83.8cm	142.2×96.5cm
身長	152～175cm	175～193cm
素材	ポリエステル、ナイロン	


ボタニカル


レトロカーブ


リソウェーブ

美しいアートワークが仲間入り

アーティスト3人によるグラフィックが追加。吸水・速乾性に優れる定番で、銀イオンのコーティングにより化繊の気になるニオイも抑えます。他にソリッドカラーもラインナップ。

パーソナル (PRINT)

価格：¥5,280
重量：181g
寸法：BODY (64×137cm)
素材：ポリエステル、ナイロン


ミスティックムース


デイドリーム


バランス

outdoor element

手に馴染む小型ナイフ

人間工学に基づいたグリップしやすいナイフです。ハンドルには115dBで鳴るホイッスル、シースには火花を飛ばすためのフェロロッドとセラミックのシャープナーを備えています。





コンツアーフェザーナイフ

価格：¥8,800
重量：92g
刃渡り：5.1cm
全長：13.9cm
素材：VG10鋼

着火機能付の折込ナイフ

刃渡り7cm、収納時は11cmの扱いやすさと携行性を両立したナイフです。ハンドルには火花を飛ばすEverSparkテクノロジーを組み込み、サバイバルシーンで頼りになります。





フォールディングフェザーナイフ

価格：¥8,250
重量：105g
刃渡り：7cm
全長：19cm
素材：VG10鋼



EverSparkテクノロジー

ホイッスル付きストライカー



本体内部には約4、5分燃える3つの点火タブを内臓。Oリングで防水しています。

120dBの大音量で鳴り響くホイッスルと6.6cmの大型フェロロッドをセットしたエマージェンシーグッズ。硬化ストライカープレートでフェロロッドを打ち、火花を飛ばして着火可能。

ファイヤーフルート

価格：¥4,950
重量：53g
全長：14.5cm



バリ島発、旅するハンモック

NEW PRODUCTS

TICKET TO THE MOON

チケット トゥ ザ ムーン

WEBサイトは
こちら!







旅行者のためのハンモック

チケット トゥ ザ ムーン（TTTM）はハンモックを中心にミニマムな旅の道具を提案するブランドです。創業者のチャールズ（チャーリー）・アントワーヌは、フランス生まれのバックパッカーでした。ハンモックを愛用し、世界を旅するさなかでインドネシアのバリ島で理想的なパラシュートナイロンに出会い、軽量で持ち運びしやすく、簡単に設営できるハンモックの開発に着手します。1996年、TTTMはこうして誕生し、ヨーロッパのフェスシーンやストリートマーケットで販売をスタートさせました。

自宅の片隅から始まったブランドはゆっくりと成長し、ラインナップも拡大。チャーリーはバリに移住し、従業員とビジネスを超えた家族のような繋がりを持ちながら、地域に根付いたサスティナブルな企業活動を続けています。

TTTMのハンモックは、トラベルラインとテクニカルラインの２本柱で展開しています。タープやバグネットなどのオプションと合わせて、どんなスタイルの旅も快適にサポートします。

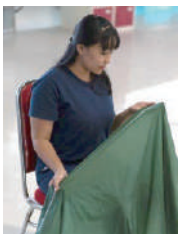
サスティナブルなものづくり





TTTMはインドネシア・バリ島を拠点としています。従業員は18歳以上で人道的で適切な労働環境のもと作業に従事。資材のほとんどを地元で調達するなど、さまざまな形で地域経済に貢献しています。2007年には「廃棄物ゼロ」を目標に掲げ、端材のアップサイクルも開始。誠実、公平で持続可能なものづくりを心がけています。

徹底的な品質管理





ハンモック等の素材は製造に入る前に引っ張り試験機で引き裂き強度をチェックしています。肌に触れる素材は、世界最高水準といわれる繊維の安全基準「エコテックススタンダード100」認証を受けており、安心して使用できます。フックなどのパーツ類も定期的にテストするなど、厳正で徹底した品質管理を行なっています。

TRAVEL LINE
バランスのとれたスタンダードモデル



オリジナルハンモック

軽量なパラシュートナイロンを使い、頑丈なトリプルステッチで縫い合わせたTTTMのルーツにしてスタンダードです。8色の鮮やかなツートンカラーからお好みをどうぞ。

価格：¥7,810
重量：600g
長さ（フック間）：320cm
長さ（生地）：300cm
幅：200cm
耐荷重：200kg
素材：ハイグレードパラシュートナイロン



オレンジ／ダークグレー



チョコレート／ブラウン　ダークグリーン／アーミーグリーン　ネイビーブルー／パープル　アクア／ダークグレー　アーミーグリーン／ブラウン　ロイヤルブルー／ターコイズ　ロイヤルブルー／オレンジ

すべてのハンモックにエクスプレススセッティングバッグを採用。片方を固定して本体を引き出すだけ。直感的な素早い設営が可能です。



収納状態

設営にはストラップが必要

TTTMのハンモックを設営するには、オプションのムーンストラップやライテストストラップが必要です。ライテストストラップはわずか95gで、本体と一緒にエクスプレスセッティングバッグに収納できます。



ムーンストラップ
価格：¥3,520　重量：216g　耐荷重：300kg



ライテストストラップ
価格：¥4,180　重量：95g　耐荷重：200kg

TECHNICAL LINE
マット併用で寝心地抜群！

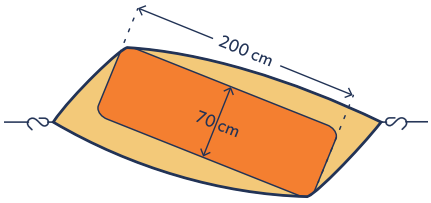


マットハンモックオリジナル

より良い寝心地を求めるコアなハンモックラバーの御用達がこちら。ラージサイズまでの軽量タイプのマットレスを収納できるポケットを備えて、肌寒い季節にも快適な眠りを約束します。

価格：￥13,200
重量：620g
長さ（フック間）：325cm
長さ（生地）：310cm
幅：170cm
耐荷重：450kg
素材：ハイグレードパラシュートナイロン
対応マット：64×196cm/厚さ10cm以下





サーマレストなどの一般的なラージサイズまでのマットレスが無理なく収まります。



マットレスで下からの冷気を抑えることで寒い季節も快適に眠れます。



マットレスは本体下のポケットに入れて使用。寝ている間にずれたりしないので快適です。

TRAVEL LINE

コンパクトハンモック



初めてハンモックを使う人にも自信を持っておすすめできるTTTMの入門的モデルです。カラフルな8色展開。シンプルでコストパフォーマンスも抜群、ステッチレスで耐久性にも優れています。



ロイヤルブルー

ダークグリーン



ダークイエロー



パープル



アーミーグリーン



ブラウン



チョコレート



バーガンディ

価格：￥5,610
重量：500g
長さ（フック間）：320cm
長さ（生地）：300cm
幅：155cm
耐荷重：200kg
素材：ハイグレードパラシュートナイロン

TECHNICAL LINE

ライテストハンモック



ミニカラビナや収納バッグまで含めてもわずか228g！ どこにでも持ち出せる最軽量モデルです。強度とストレッチ性のあるクリンクルナイロンの生地は、バリ産の素材でつくられています。





コンパクトに収納

価格：￥10,340
重量：228g
長さ（フック間）：320cm
長さ（生地）：300cm
幅：140cm
耐荷重：150kg
素材：41g/㎡クリンクルナイロン

ライテストハンモックプロ



バグネットとリッジラインを備え、本格的な冒険を目指す人にも最良の選択肢がこちら。マイクロメッシュのネットは防虫性に優れ、適度に風を防ぎつつ通気も良好で息苦しさも皆無です。



価格：￥19,800
重量：590g
長さ（フック間）：325cm
長さ（生地）：310cm
幅：140cm
耐荷重：100kg
素材：41g/㎡クリンクルナイロン

ACCESSORIES



ムーンタープ

ハンモックとの併用はもちろん、単体でも使いやすいダイヤモンド型のタープです。リッジラインの両端にはカラビナが付属しているので初めてでも簡単に設営できます。

価格：¥13,200
重量：700g
寸法：320cm
リッジ長：350cm
素材：耐水圧2000mmPUコーティング
リップストップナイロン



価格：¥6,600
重量：485g
寸法：300×130cm
ネット密度：200穴/㎠
素材：ポリエステル100%
(30℃以下で洗濯可能)

コンバーチブル バグネット360°

柔らかくて丈夫なポリエステルメッシュが不快な虫、ヘビやネズミのような小動物の侵入を防ぎます。開口部にはYKKのダブルファスナーを備え、全開にすることも可能です。



リッジライン

理想的な設営をガイドすると同時に、タープの小屋掛けもできるリッジラインです。便利なオーガナイザーポケットが付属しています。

価格：¥3,300
重量：60g
リッジ長：350cm
素材：PUコーティング 3mm UHMWPEロープ



UVスリーブ

ハンモック本体を腸詰のように収納するカバー。使用しないときにひらひらと風に揺れるのを防ぎながら、紫外線から守ります。

価格：¥1,650
重量：60g
寸法：310×10cm
リッジ長：350cm
素材：ナイロンフルダルマイクロ高密度生地

UPCYCLED COLLECTION



トラベルウォレット

ハンモック製造時の端材から生まれたコレクション。付属のカラビナで好きな場所にクリップできるシンプルなウォレットです。



価格：￥1,430
カラー：
重量：15g
寸法：15×10cm
素材：ハイグレードパラシュートナイロン





トラベルキューブ

バッグの中で迷子になりがちな小物もスマートに整理できるファスナー付きの小物入れです。3サイズあり、付属のカラビナでハンモックのリッジラインに吊るすこともできます。

	スモール	ミディアム	ラージ
価格	￥1,540	￥1,650	￥1,760
カラー			
重量	40g	50g	66g
寸法	19×13×3cm	30×18×5cm	46×48×6cm
容量	0.7L	2.7L	6.3L
素材	ハイグレードパラシュートナイロン		



エコバッグ

日常でも旅先でもあると便利なエコバッグ。丈夫なパラシュートナイロンは薄手ながら耐荷重も十分です。使わないときは手のひらサイズに収納できます。



	スモール	ミディアム
価格	￥1,100	￥1,430
カラー		
重量	40g	55g
寸法	30×32×6cm	34×39×6cm
容量	10L	15L
耐荷重	15kg	15kg
素材	ハイグレードパラシュートナイロン	

スリングバッグ

体にフィットして邪魔にならない三日月型のバッグです。中には間仕切りがあり、財布や鍵などの貴重品を整理して持ち歩けます。





価格：¥4,620
カラー：
重量：125g
ベルト長：55～100cm
耐荷重：80kg
素材：70Dクリンクルナイロン





ミニバックパック

サブバッグとして重宝する容量15Lのバックパック。薄手のパラシュートナイロンは速乾性が高く、汚れても洗濯機で洗えます。

価格：¥3,520
カラー：
重量：115g　寸法：28×42×15cm
容量：15L
耐荷重：15kg
素材：ハイグレードパラシュートナイロン





ポケットムーンディスク

大人も子どもも楽しめるフライングディスク。柔らかい素材で当たっても怪我しにくく室内でも遊べます。付属のポーチに収納できます。

価格：¥1,430
カラー：
重量：120g
寸法：φ23cm
素材：ハイグレードパラシュートナイロン



さらなる高みにあるクーロワールを目指して氷瀑を攀じる加藤

テクニカルシェルに命を吹き込め！

これを読まれている方々は日常で使用する綿の下着や肌着は頻繁に洗濯するだろうか？お気に入りのスキーやスノーボードにワックスを入れたり、チューニングするだろうか？または、雪山で命を守ってくれるアックスやクランポンなどは使用前後に手入れするだろうか？ビーコンは？テントは？ストーブは？おそらく、ほとんどの方がYESと答えるだろう。しかし、いまだ根強く「値段の張るテクニカルシェルは購入すれば、何もせずとも永続的にその性能が担保される」というおとぎ話がまかり通っている節があるのも事実だ。

今春に訪れたキルギス共和国にある天山山脈中部のとある山域で、我々は長期にわたりテント生活を営むわけだが、雪のない砂埃まみれのベースキャンプから始まり、モレーン、氷河へと様々な環境下で駆使されるシェルの労働力と言ったら大変なものだ。せめてご機嫌取り程度にと、レスト日には行動中に付着した泥汚れや油汚れに対し、近くを流れる大河で手洗いをしたり、極度な汚れ箇所に直接雪玉を擦り付けたりしてみた。その甲斐あってか、シーズン中に相当使いこんだシェルでも、ブリザードコンディションや雨交じりの湿雪をモロに受けても、性能を損ねる事なく高いパフォーマンスを発揮してくれたのだった。 ここ一年ほどでユーザーのテクニカルシェルへの意識にだいぶ変化がみられるようになってきた気がする。そう、業界全体の潮流でもあるPFCフリーへの対応がそれだ。実際のところ、ユーザー側は各有識者からの化学的な裏付けもあり、これまで恩恵を受けてきた地球環境に多大な害を及ぼしてまで自身のパフォーマンスを向上させることが果たしてクールだろうか？といったシンプルな問いにハッとさせられている方々がほとんどのようだ。その真意は、これまでの他人指向型から脱却して、クリエイティブな自身考察型へ転換していることを意味する喜ばしい流れと言えるのではないだろうか。

実は、テクニカルシェルは買ってから放置ではなく、自身で創意工夫を凝らして、育み、適材適所に使い分け、そして潜在するシェルのパフォーマンスを最大限に引き出すためにメンテナンスやリペアを繰り返して初めて息吹が吹き込まれ、

写真・中田寛也



WEBサイトは
こちら!



STORM／アパレルケアキット

価格：￥2,860
適応材質：ハードシェル、ソフトシェル、
化繊綿ジャケット
内容：アパレルウォッシュ 225mℓ、
アパレルプルーファー 225mℓ、計量カップ

加藤直之
国際山岳ガイド。MSRアンバサダー。一年を通して国内外で山岳／スノーボードガイド業務のかたわら、年2回のクライミング、スノーボード遠征で世界を攀じる／滑るを実践している



活かされるものだ。そのメンテナンスの核となるのが、洗濯にほかならない。キルギスの氷河から流れ込む河川で洗うのは極例として、お世話になったシェルに対してお家でできる最大限の恩返しは洗濯＆乾燥だ。

そう、前述したとおり、従来のアパレルという認識から逸脱して、あなたの命を守るかけがえのない道具（ギア）と同じ扱いをして欲しい。そうすれば愛着のある一着を末永く自分の好きな具合に育み使っていただける。それがアクティビティへの深い造詣に発展し、それらを一から見直す良いキッカケになり、自身の向上に繋がり、我々が地球と共生できる道筋への第一歩なのかもしれないと信じている。

UCOフラットパックグリルと旅して

シーカヤックキャンプ&焚き火クッキング

海に囲まれた島国ニッポン。北は北海道、南は沖縄までシーカヤックの超一級のフィールドが全国各地に点在しています。今回はシーカヤックに魅せられたふたりの男性を訪ね、ある日の旅を取材しました。



小雀陣二（こすずめ・じゅんじ）
アウトドアメーカー勤務などを経て、アウトドアコーディネーターとして独立。特技である料理の腕前を生かし、野外で役立つ料理を数多く紹介。シーカヤックは26歳で始め、ガイド業にも携わる。共著『"無人地帯"の遊び方 人力移動と野営術』発売中

ここ数年盛り上がりをみせているキャンプ人気。それだけではなく登山やカヤック、スキーなど、日本ではさまざまなアウトドアが楽しめます。そして、どのアクティビティを選んでも活動と深い関わりがあるのが「食」の存在。軽量な食材を担ぎ上げて作る山ごはんから、スキーを滑ったあとの街の食事まで、ただ食べるという行為以上に食を楽しみのひとつとして捕らえている人も多いでしょう。

アウトドアコーディネーターとして活躍される小雀陣二さんは、特技である料理の腕前を生かし、雑誌や書籍、テレビCMの制作現場のほか、イベント、アウトドアツアーなどでこれまで数え切れないほど野外料理を作ってきました。そんな小雀さんが料理のなかでもっとも好きだと言うのが、ほかでもない「焚き火料理」です。便利なガスバーナーとは違い、火力調整を工夫したり天候の影響を読み取るなどしながら、火そのものを操ることが好きだと言います。

「焚き火料理はキャンプの醍醐味。多くの人はオートキャンプで楽しむことが多いと思いますが、僕が好きなのはシーカヤック旅で滞在する浜での焚き火料理です。何日もかけて海岸線をめぐるツーリングでは、焚き火料理はレジャーというより調理の手段。燃料となる流木は落ちているか、調理しやすい平地はあるか、風はどちらから吹いてくるか……など、上陸する浜を選ぶ基準も変わってきます」

この日シーカヤックツーリングで訪ねたのは千葉県の南房総にある館山市。館山市は首都圏有数のシーカヤックのフィールドとして知られ、海の透明度や、大昔の地殻変動で隆起・侵食してきた変化あふれる海岸線など、シーカヤッカーにたまらない魅力があふれています。

「自然が豊かな日本はアウトドアという遊びにおいて恵まれていますが、なかでもシーカヤックで漕ぐ海は世界の国々からまったく引けを取らない。日本を取り囲む風光明媚な海岸線は一度は漕がないともったいないフィールドばかりです」

文・福瀧智子　写真・山本 智



山本　勉（やまもと・つとむ）
千葉県館山市のアウトフィッター「Saltys Paddle Sport」代表。アメリカ留学中にシーカヤックと出合い、その後約12年間にわたり商社営業やシーカヤックショップ勤務を経て独立。クラブハウスは館山市街から10分ほどの海沿いにあり、立地抜群。東京海洋大学非常勤講師も務める



房総半島の内房にある館山は海が静かで穏やかな日が多い



ノートPCほどに収納できるUCOの「フラットパックグリル」

と、シーカヤックガイドの山本勉さん。06年にここ館山市でアウトフィッター「ソルティーズ・パドルスポーツ」をオープンさせた山本さんは、以来シーカヤックを中心にSUPやカヤックフィッシングなどを通じて海のあるアウトドアライフを提案し続けています。旧知の仲である小雀さんと海を漕ぐのは何回目でしょうか。美味しいものといいお酒に目がない山本さんの視線の先で、湯気を上げ焚き火料理が完成間近。

「やっぱり手際のよさは超一級だよね。チュンチュン（※小雀さんの愛称）の料理している姿に影響を受けた人は多いと思う。いや〜うまそうだ！」



海も雪山も関係なく高クオリティで仕上がる小雀さんの野外料理



手際よく調理を進めながらシーカヤックの旅話で盛り上がる



レシピは
こちら!

いやマジ
うまい!



流木でトライポッドを
作り肉を吊す。浜にあ
るものは何でも使う

今回小雀さんが使用した焚き火台は、UCO（ユーコ）という米国ワシントン州で生まれたアウトドアブランドの製品。筒状のキャンドルランタンがブランドの代名詞ですが、灯りにちなんだ製品が数多く揃い、この「フラットパックグリル」もラインナップのひとつ。厚さ3.5cmに収納できることからシーカヤックの荷室にもコンパクトに収納できます。

「シンプルな構造でサッと組み立てられる焚き火台。軽く小型なことも魅力ですが、調理目線では燃焼に必要な空気が潤沢に入るV字型の構造で火力が維持しやすいのがいい。かといって燃えすぎず、落ちた灰もしっかり受けてくれます。今回はMサイズを使いましたが、2～3人のツーリングなら中型鍋を載せながらグリル調理もできるこのサイズがいいですね」

できあがった焚き火料理は、シーフードや野菜を熾火で炙り、柑橘系で味付けしたグリルサラダと、ちょっといい牛肉を遠火の遠赤外線でじっくり炙り焼きしたローストビーフ丼。熾火でもたらされた“焦げ”の風味がアクセントとなり、新鮮なその土地の食材が一層ごちそうに。

「いや～うまい!!」

そう声を上げる山本さんを眺め、小雀さんも満足げ。行く先々の味覚を訪ねるのもシーカヤックツーリングのよさであり、幾度となくふたりはそんな旅を続けてきました。夕暮れに赤く染まる館山の空。熾火に流木がくべられて炎が立ち上がり、静かな海辺がじき夜を迎えます。





2～3人分の料理に必要な調理スペースを備えながら、持ち運びしやすい収納サイズ。快適な付属品も充実

UCO／フラットパックグリルM

価格：￥7,150
使用サイズ：34×25.4×28.5cm
収納サイズ：37.5×27×3.5cm　重量：1.75kg
付属品：ファイヤーピット、バーベキューグリル、収納ケース
素材：ステンレス





グリル用底網M

価格：￥1,540
サイズ：32.5×7.5cm
重量：174g　素材：クロム鋼

グリル用ワイヤー網M

価格：￥2,420
サイズ：25.4×34.7cm
重量：422g　素材:ステンレス



Recipe1 焼きイカとエビのグリルサラダ

材料
- イカゲソ …… 3個
- イカエンペラ …… 3個
- エビ …… 10尾
- インゲン …… 10本
- ヤングコーン …… 6本
- かぼす …… 1個
- 醤油 …… 大さじ1
- オリーブオイル …… 大さじ2
- ブラックペッパー …… 適量
- 塩 …… 適量



作り方

1. 焚き火の熾火でインゲン、ヤングコーン、下処理して軽く塩をしたイカとエビをほどよく焦げ目を付けて焼き、お皿に入れる。



2. 醤油、オリーブオイルを加え絡めて、具材を整えて、かぼすのスライスを並べる。



3. ブラックペッパーを振り、スライスしたかぼすの端を絞り入れて仕上げる。





Recipe2 牛モモ炙り焼き丼

材料
- 牛モモ肉 …… 300g
- タマネギ …… 1/2個
- 長ネギ …… 1/4本
- お米 …… 2合
- 砂糖 …… 適量
- 麺つゆ …… 適量
- 白ごま油 …… 大さじ2



作り方

1. 牛モモ肉を凧糸で巻き、焚き火の上に吊るして向きを変えながらほどよく炙り焼きする。

2. 鍋にお米２合と２合半の水を入れ、フタをして強火の焚き火でお米を炊き始める。弱火で７分炊き上げ、火から下ろして３分ほど蒸らす。

3. 鍋に白ごま油を加え、焚き火の中火で熱し、輪切りにしたタマネギを加え少し焦げ目をつけながら炒める。





4. 麺つゆを入れ、砂糖を加えて甘味をみながら味を整え、ソースを作る。

5. お椀にご飯を盛り、ソースのタマネギを敷き、スライスした牛モモ肉を並べ、刻んだ長ネギを散らし、ソースをかける。

ADVENTURE ESSAY
BY HOBOJUN

ホーボージュン
全天候型アウトドアライター。アウトドアと野宿の旅を好み、海のそばで家族と暮らす。 MTBによる南米大陸縦断、ユーラシア大陸横断、パリ・ダカールラリー出場、シーカヤックでの外洋航海、6000m峰登山など、多彩なアウトドア経歴を持つ。それらの経験に裏づけされたアウトドアギアの知識は、国内随一。各誌で最新ギアなどの情報を発信している。

X
「@hobojun」



ボリビアのウユニ塩湖をMTBで横断する。当時はインスタ映えを狙ったツーリストの姿など皆無。標高3,600mの高度と200㎞近い無人地帯は人力移動者にとっては大冒険だった。

『1998年のウルトラライト』

アウトドアのギアには長く使えるモノが多いが、果たしてオレはひとつの道具を何年ぐらい使い続けてるんだろう……？

先日、ふとそんなことが気になって自宅のギア部屋を引っかき回してみた。僕は仕事柄最新モデルを使うことが多いのだが、それでも愛用の道具の中には年季の入ったギア類がけっこうまざっていた。よく見るとその中には80～90年代のクラシックなものもある。

マルキルの水筒、ライヨールのポケットナイフ、ピューターフラスコ、ビーンブーツ、MSRのガソリンストーブ……。そんなベテラン勢のなかにあったのが、このサーマレストの「Zシート」だ。凸凹のクローズドセルマットを屏風型に折りたたむ「Zレスト」のアイデアを、そのままミニチュア化したマニアックな製品だ。

「うわあ、懐かしい！」

ダークグリーンのこの色を見て、思わずそう声を出す人もいるかもしれない。僕がコイツを手に入れたのは1998年。今から26年も昔のことだ。そして驚くことにこれは「昔使っていた懐かしい道具」なんかじゃなく、今も現役として使っている。じつに四半世紀に渡り使い続けているのである。

＊

このZシートは友人のイトーが旅の餞別にくれたものだ。当時イトーは『アウトドアイクイップメント』というアウトドア雑誌で僕の担当編集をしてくれていたのだが、ある日僕は「雑誌の仕事を辞めて放浪の旅に出たい！」という衝動を抑えきれなくなった。この頃、テレビやラジオでは奥田民生の『さすらい』がかかりまくっていて、僕はその「さすらいもしないでこのまま死なねえぞ」というセリフを真に受けてしまったのだ。

目指す旅先は南米大陸。旅の手段は大好きだったマウンテンバイクにした。僕はフレームやキャリアをゼロから設計し、ギアやサスペンションセッティングを練り、何か月もかけて大陸横断用のスペシャルバイクを作りあげた。

バイク本体だけでなく、キャンプギアにも徹底的にこだわった。僕らの作っていた『アウトドアイクイップメント』誌

はその分野の専門である。当時はまだ「ウルトラライト」という言葉もなかったが僕とイトーは世界中から軽くて機能的なギアをせっせと集め、その旅支度の過程を誌面で紹介したりもした。

そしてやってきた出発の日、イトーがヒョイとこれをくれたのだ。

「重量は実測で60gです。これなら荷物にならないでしょう」

「サンキュー。玉座にするよ。これで世界はオレのものだ」と僕はいった。

この当時、僕らは世間で大流行していた大掛かりなオートキャンプスタイルをバカにしていた。肘掛け付きのキャンピングチェアにふんぞり返ってチーズフォンデュなんかを食べるより、地べたに座ってヌガーバーをかじるほうが何倍もクールだと思っていた。アウトドアライフの基本は原点回帰だ。イスなど要らない。この大地こそが僕らのイスだ。大地に座ればそこが自分の王国になる。そんな原稿を僕はよく書いていた。しかしイトーが餞別にくれたZシートはイスですらない。座布団と呼ぶのもおこがましい。あまりのペラペラさに僕は笑った。ミニマムにもほどがある。だがその“軽薄さ”が僕はとても気に入った。

＊

僕の旅は赤道直下のエクアドルを出発し、ペルー、ボリビア、チリ、アルゼンチン、そして大陸最南端のパタゴニアまで8か月続いた。ほとんどが野宿で、その途中には無人地帯も多かったので食事は焚き火で自炊をした。

その毎日で、この薄っぺらなZシートは大活躍をしてくれた。MTBを漕いでいる時にはリアキャリアの上に乗せて荷物の緩衝材にした。僕は撮影用に一眼レフとレンズを入れたカメラバッグを持っていたのでそのクッションにちょうどいい。テントサイトではもちろん座布団として活躍してくれたし、眠る時には枕代わりにした。またメルカド（マーケット）で買ったワインボトルやインディオのお母さんに持たせて貰った新鮮な卵をダートロードの酷い振動から守るためにグルグル巻いて使ったりもした。

そうそう、焚き火を熾すときのウチワにもよかった。カラカラに乾いたサボテンの芯を着火材代わりに使い、なんどコイツで火を熾したことだろう……。コイツはただの座布団なんかじゃなく、旅の暮らしの超お役立ちグッズだった。

南米縦断の旅から帰った後も僕はコイツを愛用した。シーカヤックツーリングではシートクッションにしたり、デッキにドライバッグを縛り付ける時の滑り止めにしたり、ハッチの中に入れる貴重品の緩衝材に利用した。ポリエチレン素材は水分を吸うことがなかったので、海水を被っても気にならない。

雪山へ持って行くことも多かった。雪の上に座ると尻が冷える。そんな時にザックのサイドポケットからサッと取り出して座れるのは助かった。じつはつい最近も北アルプス立山連峰でスノーキャンプとバックカントリースノーボードをしていたのだが、その山行にも持っていった。季節やアクティビティを越えていつも僕の側にいた。

＊

こんなふうに使い続け、気づけば四半世紀も一緒だ。苛酷な使用ですっかりヘタリ、厚みはもう1.2cmぐらいしかない。しかも本当は六つ折りなのに一片がちぎれ飛んで五つ折りになってしまっている。いいかげん買い換えればいいのだが、付き合いが長すぎて縁を切る気にはとてもならない。

先日イトーにその話をしたら「僕もあの時に買ったZシートをいまだ現役で使っていますよ」と笑っていた。雑誌は廃刊になり、イトーの勤めていた出版社も潰れてしまったが、フリーランスの編集者になったいまもイトーは僕と同じZシートを仕事用のイスに敷いて愛用しているそうだ。アウトドアーズマンというのはみんなモノ持ちがいい。

軽くシンプルな道具はどこにでも連れて行ける。だから何度もいっしょに旅に出る。そしてそうやっていくつもの旅を共にした道具には「想い」が乗っかる。ハカリに乗せたときの重量は60gのままだが（いや、一辺がちぎれたので44gだ）、旅の思い出はあまりに大きすぎて、小さなデジタルスケールでは計りきれない。

吹けば飛ぶようなこの小さなマットは、僕にはとても重く、そしてかけがえのない存在なのだ。



商品情報はこちら！

PRESENT

アンケートに答えて プレゼントをGET！

本誌BACKCOUNTRY RESEARCHは各ページに掲載した二次元バーコードでWEBと連動しています。本誌は年2回の発行ですが、WEBは最新記事を随時アップ。モチヅキスタッフはもちろん、ガイドやアンバサダーの力も借りて、シーズン中も有益な情報を発信しています。製品の選び方や使い方、裏ワザやメンテナンスのような深〜い情報満載。PHOTOコンテストのような参加型の企画や、WEBならではの動画を使ったコンテンツも充実していますので、ぜひチェックしてください。今回は本誌の発行を記念してアンケートを実施します。アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選でおすすめのアウトドアグッズをプレゼント。ふるってご参加ください。



←アンケートの回答はこちらから
応募締め切りは10月31日



TEPPA／
栗　レッド 1名様

細い薪割から枝打ち、木工作業までできる万能両刃鉈



TICKET TO THE MOON／
オリジナルハンモック+ムーンストラップ 1名様

最もスタンダードでベストセラーのハンモックです。
カラーバリエーションも豊富。



ICEMULE／
クラシッククーラー M
アイスミュールカモ 1名様

保冷力が高く、使わないときは丸めて小さく収納できるソフトクーラー。





UCO／
フラットパックグリルM 1名様

収納サイズはわずか厚さ3.5cmのコンパクトな焚火台。
どこでも焚き火を楽しめる道具です。

MSR／
ピカ1L ティーポット 1名様

容量1L の軽量なアルミ製ティーポットです。
細くゆっくりと注ぐことができます。



2023 PHOTO CONTEST

昨年もたくさんのご応募ありがとうございました。素晴らしい写真が多く、心苦しくも8点選ばせていただきました。
皆様から寄せられた応募作品総数751点の中から、見事に入賞された方々の作品を発表いたします。



最優秀賞
@nagatomo_akphotoさん

2023年
フォトコンの
詳細はこちら



優秀賞
@tani_yさん



優秀賞
@masa_summerさん

2024 PHOTO CONTEST

今年もMSRフォトコンテストを開催いたします！

**登山、キャンプ、カヤック、自転車など
アウトドアを楽しむ写真を募集します。**

**MSR製品をご愛用の方は、是非お気軽にご参加ください！
入賞作品には豪華プレゼントをご用意しております。**



開催予定　2024年5月上旬~9月30日
※開催のご案内についてはMSRインスタグラムでも発表させていただきます。

1. MSR日本公式アカウント(@msrgear_japan)をフォロー
2. ハッシュタグ「#my_msrgear2024」を付けて写真を
   インスタグラムで投稿
3. 過去の投稿は対象外となりますので必ず再投稿してください。

詳細は
こちら！

このコンテストは、
コンクールでは
ございませんので
写真の技術では
選考をいたしません!
審査員の心を
震わせたもの勝ちです!

浄水器を安全に使うために

日本でも携行することが常識になりつつある浄水器は長く安全に使い続けるために適切なメンテナンスが欠かせない道具です。ここでは、ご自宅で簡単にできるクリーニングや安全チェックの方法をご紹介します。



準備するもの
MSR／トレイルショット マイクロフィルター
容量1L程度の取水用の鍋（MSR／セラミック2ポットセットを使用）
キッチン用塩素系漂白剤
乾燥時に分解したパーツを乗せておく布（パックタオルを使用）

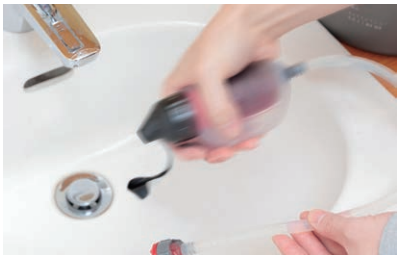
フィルターのクリーニング

トレイルショット マイクロフィルターはポンプケース内部にある中空糸膜のフィルターで水中の病原菌や微生物、微粒子を濾し取ります（ウイルスは除去できません）。8Lろ過するごとに、清水を使ってフィルターに残った異物を洗い流してください。

動画はこちら!



1.
清水（水道水で可）を用意し、ポンプケースの半分くらいになるまで貯める



2.
おおよそ20秒間ほどシェイクして、フィルターに詰まった不純物を取り除く



3.
シェイクする際は飲み口のキャップを外して、飲み口まで清水ですすぐイメージで行なう



4.
ホースを取り外してポンプケースに残った水を出し切る

長期保管のための除菌方法

次亜塩素酸ナトリウムを主成分とした市販の塩素系漂白剤を使用することで、中空糸膜フィルターの除菌・消臭が可能です。漂白溶液にフィルターを浸すだけの簡単な作業なので、長期保管（6か月以上）の前にはぜひ行なってください。洗浄後は十分に乾燥させてください。

動画はこちら!



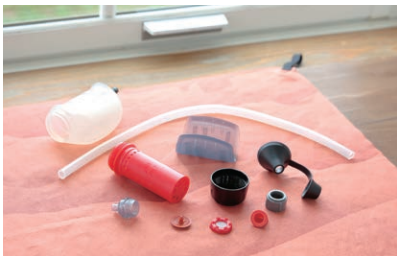
1.
水道水1Lに塩素系漂白剤2.5mlをくわえて除菌用の漂白溶液をつくる



2.
漂白溶液１Lすべてをフィルターに通す



3.
フィルターが漂白溶液で濡れた状態で30分置いたのち、水道水1Lで洗い流す



4.
分解して水気をきり、フィルターを1週間ほど乾燥させ、組み立てなおして保管する

安全チェック

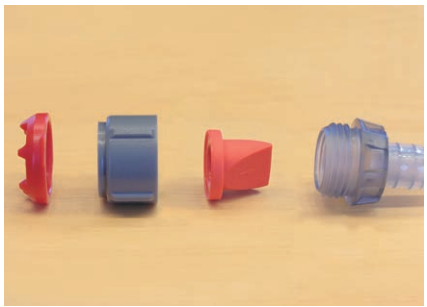
中空糸膜は繊細で、破損して穴が空くとフィルターとして機能しなくなってしまいます。本体を落として衝撃が加わったり、凍結したりした可能性がある場合は、使用前にこの安全チェックを行なってください。トレイルショット マイクロフィルターの中空糸膜は空気を通すタイプで、正常な状態であれば、内部に水を満たすと凹んだままゆっくりと元に戻ります。安全チェックで壊れていることがわかったら正常なフィルターに交換してください。

動画は
こちら!

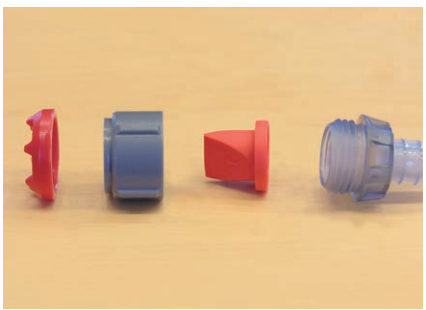




1.
清水を入れた鍋から750mlをろ過し、中空糸膜が十分に濡れた状態にする。ろ過した水はあとで使うので置いておく



2.
プレフィルターとメネジ側チェックバルブケースを外す



3.
清水を逆流させられるよう、チェックバルブを逆向きに取り付ける



4.
飲み口とアンブレラバルブを取り外し、なくさない場所に置いておく



5.
手順１でろ過した清水500mlをキャップ側からフィルターに逆流させる



6.
キャップ側が水中にある状態で、ポンプケースを押して凹ませる



7.
ポンプケースを押して凹ませたまま水から揚げる



8.
ポンプケースから手を離して30秒以上凹んだままなら正常。30秒以内にポンプケースが膨らむ場合はフィルターが破損して機能していないため、正常なものに交換する

TEPPA
CRAFT GEAR

猪野正哉（いのまさや）
焚き火マイスター／アウトドアプランナー。焚き火好きが高じて、雑誌のライティングからテレビやYouTubeの焚き火監修、焚き火講師も務めるまでになった。著書に『焚き火の本』『焚き火と道具』（ともに山と渓谷社）がある。

WEBサイト
はこちら!



塗るか塗らないかで作業効率が変わる

焚き火を生業にしている私にとって、一番重要なアイテムは刃物である。ライターなど着火アイテムかと思われがちだが、そうではない。“焚き火マイスター”を名乗ってはいるが、市販されているサイズの薪を何もせずに燃やし始めることは容易でない。そもそも火起こしのコツは細い薪や小枝を初めに燃やし、火力を安定させることに限る。そして中くらいの薪、太い薪へとバトンしていくことだ。なので、火起こし前の薪割りは必要不可欠になってくる。とは言え、薪を割ることは人の力では不可能で刃物に頼るしかなく、焚き火道具入れのなかには、ノコギリ、鉈、ナイフ、クサビが常に入っている。

そのなかでも大活躍しているのが鉈である。数ある刃物のなかでも出番が多く、薪割りからバトニング、フェザースティックまでを1本で完結できるところが、気に入っている。「えっ？」と思うかもしれないが、フェザーを作ることは可能である。本来、細かい作業はナイフのほうが向いているが、持ち替える手間などを考えると効率よくことが運ぶ。

とくにTEPPAの“守門”は2021年に発売されて以来、ずっと使い続けている。白無垢だった樫の持ち手もアジが出てきた。これまでに薪を何本割ったかは数えきれなく、ただ日本一使いこなしているという自負があるし、新たに刃物を購入するならオールマイティな鉈が断然オススメである。

タフな作りなのでちょっとやそっとでは刃こぼれや切れ味が悪くなることはない。ただ私の場合は人より多く使うことで刃へのダメージは計り知れない。刃こぼれや錆は視認できるが、切れ味に関しては薪を割ってみないことには分からない。切れ味が悪くても割れないことはないが、いつも以上に力が入り無理な使い方をすると、思いもよらないケガを招くことがある。それを防ぐために、潤滑油が必要になってくる。例えば、車と同じでオイル交換をしないとエンジントラブルや車の寿命を縮めてしまう。エンジンオイルのように鉈に欠かせないのが、新たに発売されたクリーナーとオイルだ。クリーナーを塗ることで松脂などの樹木の油汚れを回避し、オイルで錆をブロックしてくれる。そうすることで快適な薪割作業が維持できる。調子が悪くなってからでは遅く、何事も先手を打つことが長持ちをさせるコツであって、道具を労わることを決して忘れてはいけない。



クリーナー、オイルを塗る場合は、ウエスなど乾いた布で丁寧に拭き取っていく。鉈は固定した方が作業しやすい。

文・猪野正哉　写真・山本 智



鉈オイル
価格：¥440
刃を錆から守ってくれる防錆オイル。水分、汚れなどをよく落としてから塗布する。

さびとり侍
価格：¥1,320
消しゴム感覚で擦れば、簡単に錆が落とせる。鉈だけでなく農具などにも最適だ。

鉈クリーナー
価格：¥440
汚れた場所に塗布し、すぐに拭き取らず、しばらく放置してからの方が効果アップ。

ハンディストーン 鉈用
価格：¥4,070
携帯性が抜群なスティック型の砥石。1本あれば、いつでもどこでも気軽に研げる。

キャンプ道具みたくメンテナンス道具も揃える



薪割りで使用すると目に見えない木の油が付着する。何もせずに放置しておくと切れ味が落ち、錆の原因にも繋がってしまう。とくに水に濡れたままの状態は、鉈にとっては最も良くない。サッとメンテナンスはできてしまうので億劫がらずに塗っておけば、次回も万全な状態から始められる。



錆びてしまった道具を見てしまうと、諦めて買い直そうと思ってしまうのは人の常である。ただ思いとどまり、消しゴムを扱うようにゴシゴシするだけで、あれよあれよと新品のように甦ってしまう。錆びたままだと強度も下がってしまい、刃にも財布にも良くはない。刃物以外の錆にも対応。



レンガサイズの砥石をイメージしてしまうが、スタイリッシュなデザインになっている。研ぎ方は、砥石を水で濡らしながら、鉈の刃を地面から約30°傾け、砥石を地面と平行に刃先を研いでいく。ある程度研ぐと反対側にバリができ、それを取り除くと刃先がツルツルになり、研ぎが完了。

理にかなった日本伝統の鉈は使い心地抜群



手斧に比べ、力一杯、振り下ろさなくても刃の重さからくる重力と遠心力が薪に伝わり、ストレスなく割れる。力の弱い日本人向け。

守門
価格：¥13,750



刃に重みがあることで、薪割りに特化。刃先がフラットだと薪を捕えやすくなる。

粟
価格：¥13,200



細かい薪割りから枝打ちなど、マルチに活躍する。刃先が長いことでバトニングにも。

弥彦
価格：¥11,000



刃の先の突起が、土台から刃先を守る。熊手のように落ちている枝や薪を掻き集めることも。

角田
価格：¥8,580



切れ味は群を抜き、"切る""削る"がメインに。片刃なのでフェザースティック作りに最適。

TEPPA
CRAFT GEAR

まさに機能美！
使い易さを追求したペグハンマー



ヘッドは高強度スチールに防錆性に優れたカチオン電着塗装仕上げ。ロゴのエンボスも◎

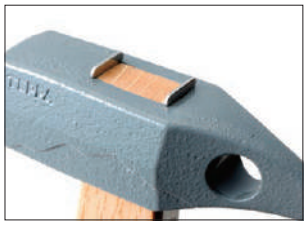
クライミング用ハンマー譲りの丸穴はカラビナを通して携行したり、ペグ抜きにも使える

ヘッド側面には新潟県三条市の山「粟ヶ岳」の稜線をイメージしたエンボスが施されている

動画はこちら！

ベースキャンプハンマー

価格：¥6,600
サイズ：28.3×12.4×3.5cm
重量：650g



ヘッドはクサビではなく、T字止め具仕様。ハードに使ってもヘッドが抜けづらいので安心して使える



ヘッドの打撃面は30㎜角あり、ペグの頭を確実に捉え打ち込んでいく



しっかり打ち止めされた止め具下部にはTEPPAのロゴがさりげなくエンボスされているあたりが粋だ

柄は天然の樫材で耐久性が高く、中下部が少し膨らんでおり握ったときに中指と薬指の間に引っ掛かりしっかり打込むことができる

最下部の穴にパラコードなどを通すことでハンマーのすっぽ抜けを防止することができる

1ペグの頭が深く入ってしまった場合などは、ヘッドを地面につけテコの原理で少し持ち上げると抜きやすい　**2**ヘッドの丸穴を利用して抜くこともできる。硬い地面の場合、左右に回転させると抜きやすくなる　**3**ペグに細引きなどを付けておくとヘッドの先端が引っ掛けやすくなる。ペグの挿入角度と合わせると抜きやすい　**4**ヘッド上部が平らなので、立てておくことができる。ペグ打ち作業のときにすぐに手に取ることができるのでストレスにならない





年間何百何千回とペグを打ち抜きしている僕にとってハンマーは重要な仕事道具。様々なハンマーを使ってきたがこのベースキャンプハンマーはとにかくバランスが素晴らしい！柄の長さと握りやすさ、そしてヘッドの重みで叩いていけるので腕が楽！見た目のSimpleさから逸脱した使い易さ、このハンマーは欠かすことのできない仕事の相棒だ。

文・牛田浩一　写真・山本 智

新潟の遊びと食 vol.3



寺泊から弥彦山･角田山の絶景登山へ、海の幸堪能旅

「新潟の遊びと食」3回目となる今回は！とうとうやって参りました！海！今回アブラは少し抜いて“魚のアメ横”ともいわれる寺泊の“魚の市場通り”で海の幸を堪能して､TEPPAの鉈2種“弥彦”と“角田”を両方楽しんじゃおうという欲張りプラン！まずは寺泊で腹ごしらえということで魚のアメ横をブラつく。日本海の旬な魚介類がズラリと並び、店先では浜焼きのいい匂いが。。我慢ならず、数ある浜焼きの中からイカ・ホタテ・つぶ貝、そして高級魚のどぐろ！をチョイス、この後の山に備えてお腹に溜まるものがないかなとみていると“こしひかり団子”なるものを発見！米どころ新潟！これは食べるしかないでしょということで追加購入し、もうひとつの名物“番屋汁”と共に早速頂く。口いっぱいに磯が広がる「旨い。。旨過ぎる。。」今まで高速のサービスエリアや祭りの屋台で食べていたのは何だったんだろうってなる。いつも思うのだが“旨い”以上の言葉ってないのかね。。ひとつひとつ美味しさを伝えたいが文字数がいくらあっても足りないのでここでは割愛。あっ！一言だけ！もし行く機会があれば“こしひかり団子”は是非食べて欲しい！魚貝じゃないじゃん。。でもめちゃめちゃ旨い！

で、あっという間に食べつくし、お腹一杯！さて、お山に向かいますか！







寺泊の浜焼きから始まり、弥彦山山頂にて“千魚万来”さんの地魚バーガーで舌鼓を打つ。締めくくりは角田岬灯台！目の前に広がる水平線、うっすら浮かび上がる佐渡島を見ながら心地よい潮風でクールダウンしつつ今日一日を回想する。なんて贅沢な一日だったんだろう。海・山を一日で堪能できる、これも新潟の魅力的な遊び方。



寺泊“魚の市場通り”に行ったら食べずにはいられない浜焼き！今回行ったのは10月中旬、これから旬を迎えるズワイガニが並んでいた。

新潟の遊びと食バックナンバーはこちら!







今回浜焼きを買った金八さんでヤバいものを見つけてしまった。。“カニ・コーラ”！そのお味は！是非ご自身で体験してください！

海の幸!パワースポット!登山!贅沢な一日！

まずは弥彦に向かうべく新潟寺泊線を走っていると弥彦山クライミングカーに向かう弥彦山スカイラインとの交差点に“地魚バーガー”なるのぼりを発見！これはランチに丁度良いと寄り道。スカイラインに入ってすぐ、青い看板が目立つ地魚バーガーのお店「千魚万来」さんがあった。千魚万来さんは「近海の美味しい地魚を食べてもらいたい！」と釣りが大好きな丸山さんが始めたお店で、釣魚の買い取りもするという珍しいお店。だから“千魚万来”なのかと納得。バーガーの種類は白（白身魚）・青（青魚）・赤（サーモン）から選ぶ形で魚種は仕入れ状況で変わるとのこと。この日は白がなく、青（鯖）と赤だったので、せっかくならと2つ購入。山頂で食べるのが楽しみだ。

弥彦山には先ほど立ち寄った千魚万来さんがあった弥彦山スカイラインをずっと行くと勾配50度の斜面をあがっていく弥彦山クライミングカーがあり、あっという間に上まであがることができる。が、今回はせっかくなので山行の安全祈願も兼ねて弥彦神社から登ることにした。弥彦神社は日本一神社が多い新潟県でも年末年始の参拝者数が1位！年間100万人が参拝にくるという県内外でも超有名な神社！樹齢400年を超える杉やケヤキに囲まれており、鳥居から一歩踏み入れた瞬間から何やらパワー的なものを感じる。これがパワースポットというやつだなと思いつつ本殿に向かう。立派な三間社流造の本殿でお参りをし、厳かな面持ちで登山道に向かう。ロープウェイもあるが今回は歩きで。因みに弥彦村は枝豆も有名で枝豆祭りという祭りが開催されるほど！実はわたくし、背脂ラーメンと同じぐらい枝豆が大好きで昨年この枝豆祭りに行ってしまったほど。。弥彦の



弥彦にきたなら是非行って頂きたい豆屋さん！このカレー豆がめちゃめちゃ旨い！レトロなお店のおばあちゃんに癒される



やって参りましたパワースポット“弥彦神社”。鳥居で一礼から本殿に向かう。県道にある大鳥居も一見の価値あり



樹齢400年を超える木々に囲まれて森林浴。本当にパワーを分けてもらっている感覚になる。まさにパワースポット

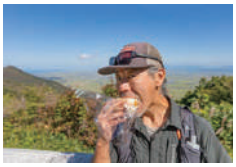




新潟平野を見下ろしながら地魚バーガーをパクリ！奥には1回目に登った粟ヶ岳、右に前回登った守門岳が見える



千魚万来さんは、いかめしやフグの唐揚など単品メニュー、コーヒーや果汁100%のジュースもある



枝豆“伊彌彦”マジでおススメです！夏が待ち遠しい～

弥彦山の標高は東京スカイツリーと同じ634m、気持ちの良い森林浴をしながらきれいに整備された登山道を歩いて1時間ちょっとで山頂へ到着。山頂からは日本海、そして反対側は燕市方面の大パノラマが広がる。また山頂には弥彦神社の奥宮（御神廟）があり、ここでもお参り。山頂にはパノラマタワーや展望食堂もあるので手ぶらでも楽しめる。さて、待ってましたランチタイム！大パノラマをバックに地魚バーガーを頬張る。身がしっかりした鯖と程よく脂ののったサーモン、いや～丸山さん両方旨いっす！あっという間にペロッと平らげ、さあ次は角田山に登るぞ。

一旦弥彦山を下山し、角田山へ向かう。縦走もできなくないが、今回は寺泊で楽しんでしまったので、車で移動。角田山のコースは色々と（なんと17コースも！）あるが、せっかく海の回なので海抜0から！海のパノラマとシンボリックな灯台が楽しめる灯台コースを選んだ。

角田山の標高は481.7m、少し狭目なシングルトラックで途中岩場もあるが、1時間ちょっとで山頂へ。山頂での展望はないが途中の景観が素晴らしいコースだ。

寺泊で海の幸を満喫し（本当は海鮮丼食べたかった。。）、山を2つも登る、なんて充実した一日だ。こんなことができるのも新潟の魅力ではないだろうか。



今回の締めくくりは角田岬灯台。いや～楽しかった！新潟最高！時間が早ければ角田浜にあるハイスタ難波さんのラーメン食べたかった。。



Mochizuki Outdoor Tools
株式会社モチヅキ

〒955-0093　新潟県三条市下須頃323番地
TEL.0256-32-0819(代)／FAX.0256-32-0880
E-mail info@e-mot.co.jp　www.e-mot.co.jp

＊商品の仕様、デザイン、価格等は予告なしに変更されることがあります。＊実際のカラーとは異なることがあります。